

【声に出して読む】 俳句 小林一茶 一

やれ打つな 蠅が手をすり 足をする

やれうつな はえがてをすり あしをする

これがまあ 終の栖か 雪五尺

これがまあ ついのすみかか ゆきごしやく

雀の子 そこのけそこのけ お馬が通る

すずめのこ そこのけそこのけ おうまがとおる

泣け涙 蟲の命も あるものを

なけなみだ むしのいのちも あるものを

【声に出して読む】 俳句 小林一茶 二

瘦蛙 負けるな一茶 是にあり

やせがえる まけるないっさ これにあり

我と来て 遊べや親の ない雀

われときて あそべやおやの ないすずめ

蝶々や あしたば食って すぐ翔べよ

ちようちようや あしたばくって すぐとべよ

梅が香や わが寝る床の 紙障子

うめがかや わがねるとこの かみしようじ

【声に出して読む】 俳句 小林一茶 三

夕立や 木の葉をつかむ 風の音

ゆうだちや このはをつかむ かぜのおと

一匹の 蚊にも五分あり 六分あり

いっぴきの かにもごぶあり ろっぶあり

名月や 膝にのこる 父の影

めいげつや ひざにのこる ちちのかけ

下萌や 雀の雀 子をこぼす

したもえや すずめのすずめ こをこぼす

【声に出して読む】 俳句 小林一茶 四

我が肩に 大きなのっかる 雪の粒

わがかたに おおきな のっかる ゆきの つぶ

寝るときも 子に鼻歌や 夜の雪

ねるときも こにはなうたや よるの ゆき

みの虫や 母が手紙を 読む夜更け

みのむしや ははがてがみを よむよふけ

人目見る 雀の群れや 稲の束

ひとめみる すずめのむれや いねのたば

【声に出して読む】 俳句 小林一茶 五

餅つきや あたり一面 母の声

もちつきや あたりいちめん ははのこえ

この道や 行く人なしに 秋の暮れ

このみちや ゆくひとなしに あきのくれ

親譲り たまの着物の 虫干や

おやゆずり たまのきものの おしぼしや

朝顔に つるべ取られて もらひ水

あさがおに つるべとられて もらいみず